

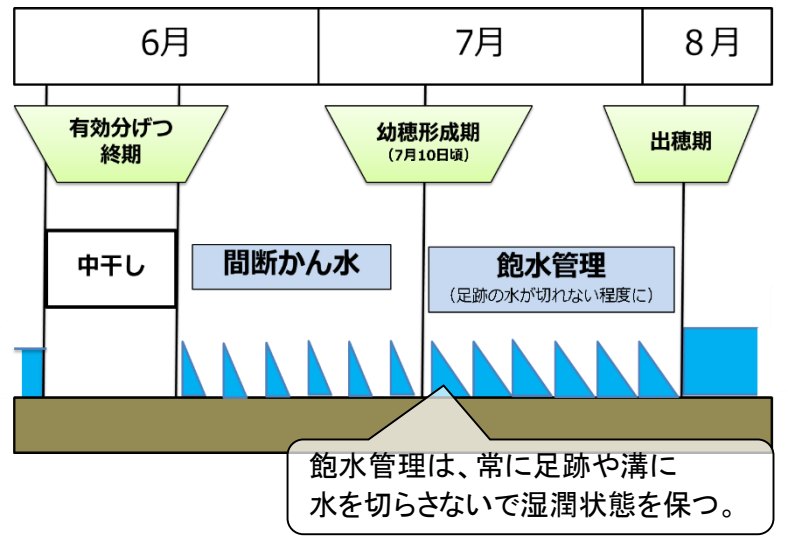
## ～ 産地として選ばれる「なのはな米」 1等比率95%以上を達成しよう！！～ H30JAなのはな米品質向上運動実施中

生育は、6月上旬に急速に茎数が増加し、平年並みとなっています。  
各圃場の生育状況等を確認し、中干しやその後の水管理等の栽培管理を適切に行いましょう。

### 1 中干し後の水管理

- 中干しを実施していない圃場は、**早急に中干し**を行いましょう。
- 中干し後は、「**間断かん水**」を行い、幼穂形成期頃までに足跡の深さ3cm沈む程度のかたさに仕上げましょう。
- 幼穂形成期から出穂期までは、稲体の水分要求量が高まるので、「**飽水管理**」(足跡に水が残る程度の湿潤状態を保つ)で稲の活力を維持しましょう。

#### 【水管理のイメージ(コシヒカリ)】



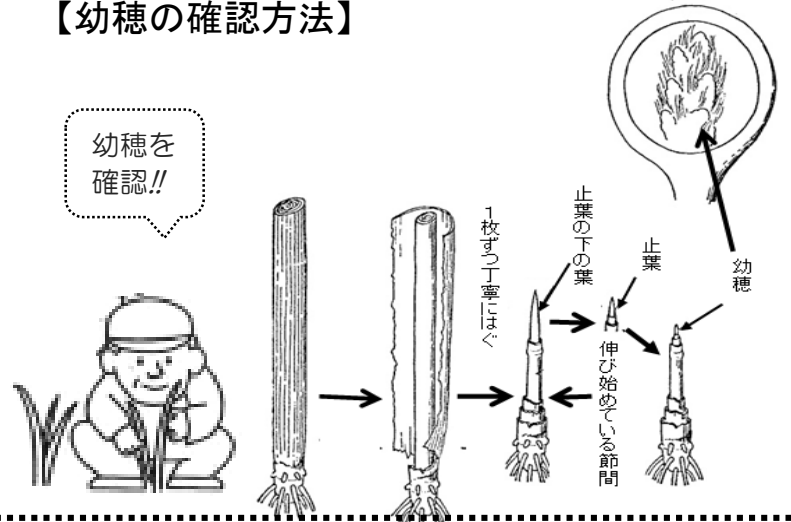
### 2 てんたかくの穂肥

○てんたかくの穂肥の施用時期及び施用量の目安(※)

穂肥	施用時期	肥料名	10a 当り施用量
1回目	6/30～7/2 頃 (注:幼穂長 1～2mm を確認した頃)	追肥 3号	10～12kg
2回目	1回目の 10 日後	追肥 3号	12～13kg

※ 5月連休田植え・分施体系の場合  
不明な点は、営農指導員や普及指導員にご相談ください。

#### 【幼穂の確認方法】



### 3 草刈りの徹底

- 畦畔等の雑草の穂は、カメムシ類の好適なエサとなるので**穂が出ないように草刈りを徹底**し、カメムシ類の発生量を少なくしましょう。
- 本田内のノビエやホタルイは、**アカスジカスミカメ**の産卵場所となりますので、除草に努めましょう。
- 麦あと圃場は、積極的に大豆、園芸作物、緑肥等を栽培し、雑草が繁茂しないよう管理しましょう。
- 草刈運動期間中に草刈りを実施し、**地域全体でカメムシ類の発生源を減ら**しましょう。

**草刈運動期間: 7月1日～10日**  
**<一斉草刈日: 7月7日(土)～8日(日)>**

<草刈りの際は以下に注意>

- ★ 刈った草は、用排水路に流したり燃やしたりしない。また、草刈りで道路を汚したら、すみやかに片付けましょう。
- ★ 草刈り機によるケガに十分注意し、草刈り中、近くを人や車が通過する時は、小石等が飛散しないよう注意しましょう。

#### 【斑点米と主な斑点米カメムシ類】



目安として、**玄米 1000 粒に 2粒混じると 2等米に格下げ!!**

#### <主な斑点米カメムシ類>



アヒゲホリミドリカスミカメ



アカスジカスミカメ



クモアカメムシ



トゲシラホカメムシ